北山古墳群発掘調査現地説明会

岡 山 市 教 育 委 員 会
日時：平成 29 年４月 15 日（土）
場所：岡山市東区浦間

はじめに

岡山市教育委員会では、民間の開発事業に伴い、北山古墳群の発掘調査を進めてきました。このたび調査がほぼ終了しましたので、出土品や確認された遺構について説明会を開催することとなりました。

北山古墳群について

北山古墳群は、吉備最古の前方後円墳とされる浦間茶臼山古墳（全長 140 m）の北約 500 m の丘陵尾根上に位置しています。これまで発掘など行われていません。岡山市の遺跡地図には４基の方墳（四角形の古墳）が存在すると記録されています。正確な規模は不明ですが、現地表の観察によると４基の１辺 10 ～ 15 mの方墳で構成されます。

発掘調査の内容

１号墳

尾根の南端に位置します。調査の結果、東西約 10 m、南北約 13m、高さ約２ mの方墳であることがわかりました。墳頂部には埋葬施設が残っていました。盗掘され、大きく破壊されていたものの、残存部分の特徴から、長さ約 2.5m、幅約 1.2 mの木棺墓が存在したものと思われます。木棺の埋土の中に、安山岩と呼ばれる香川県北部で産出する石材が数点含まれていました。同じ石材が浦間茶臼山古墳の石室にも使用されており、両者の関係が注目されます。

この他、骨片が数点とガラス玉が１点出土しました。

図１　北山古墳群の位置（1/5000）

２号墳

４基の古墳の中で最も高所に築かれ、規模も一番大きい古墳です。東西約 12m、南北約 17m、高さ約２mの規模を測ります。残念ながら埋葬施設はすでに失われており、埋葬施設の構造や副葬品等詳細は不明です。

３号墳

４基の中で最も小規模な古墳です。東西約８m、南北約 11m、高さ約１mを測ります。小規模ながらも、埋葬施設の痕跡が３基確認できました。埋葬施設は上半部が削平され、下半分が残っていました。埋葬施設は、３基とも、木棺を粘土で包み覆ったもの（粘土槨（ねんどかく））と考えられます。３基とも長さ約 3.5 m、幅約 70㎝の規模と考えられます。

４号墳

尾根の最北部に築かれています。発掘前から、墳頂部に盗掘跡の穴がみられました。調査の結果、東西約 10m、南北約 14m、高さ約２m。埋葬の痕跡がみられますが墳丘は削れられており、詳しいことはわかりません。おそらく土壙墓があったものと推測されます。
鉄斧が１点、鉄刀の破片が１、鉄の矢尻が１点出土しています。

おわりに

北山古墳群が築かれた時期は、出土した４号墳の鉄斧や１号墳･3 号墳の埋葬施設の構造から、古墳時代前期～中期（4 世紀から 5 世紀）の時期と考えられます。調査成果の中でとくに注目されるのは、第１古墳で確認された石材（安山岩）です。香川産安山岩の利用は、古墳時代前期では、全長 42 m以上の規模を持つ前方後円・後方墳に限られています。なぜこの石材を、小規模な方墳である北山１号墳に使用することができたのか興味深い問題です。古墳群の近くには浦間茶臼山古墳が築かれており、その被葬者と何らかの関係があったものと推測されます。

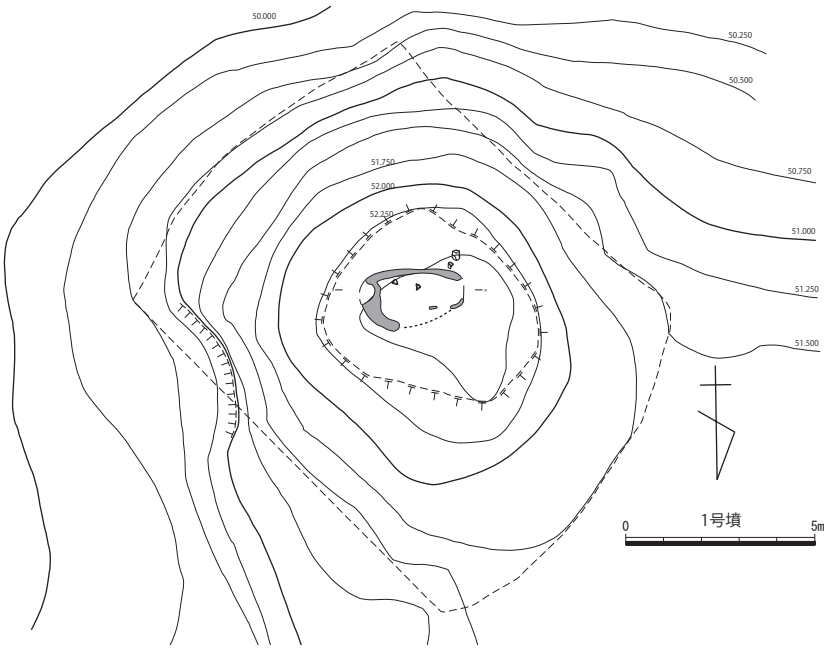

図２　１号墳平面（1/200）

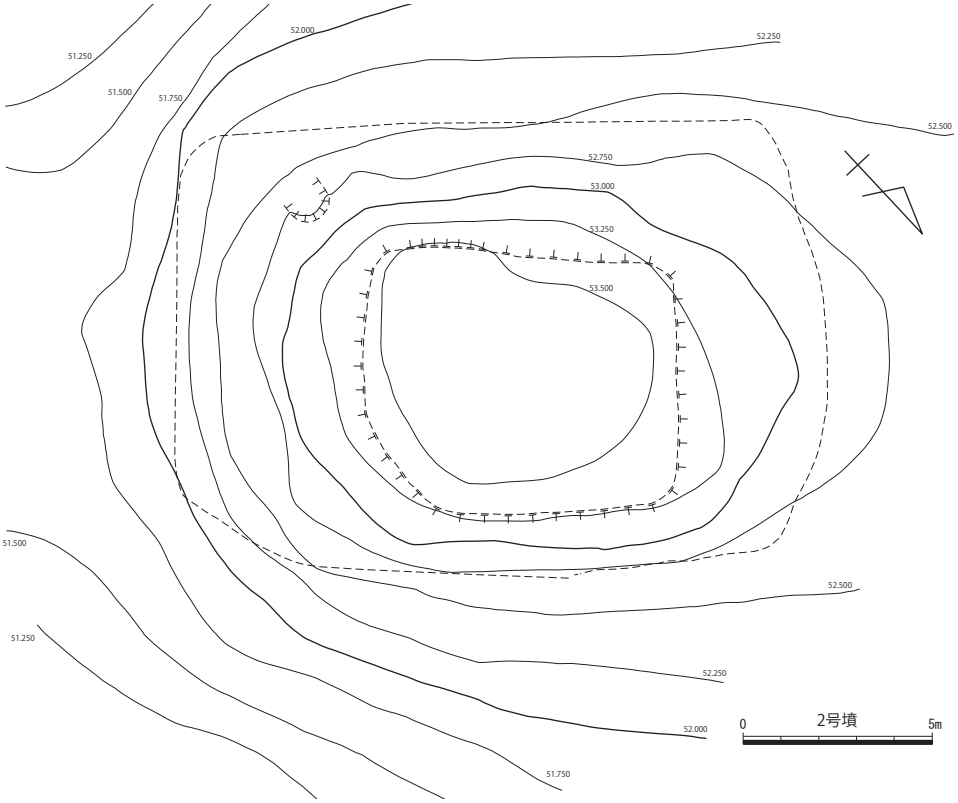

図３　２号墳平面（1/200）

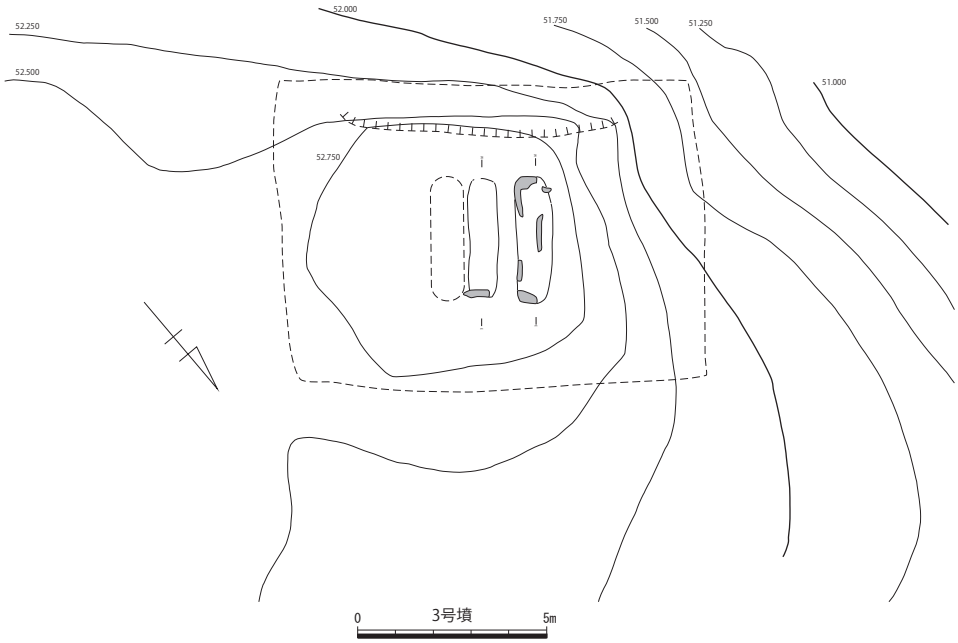

図４　３号墳平面（1/200）

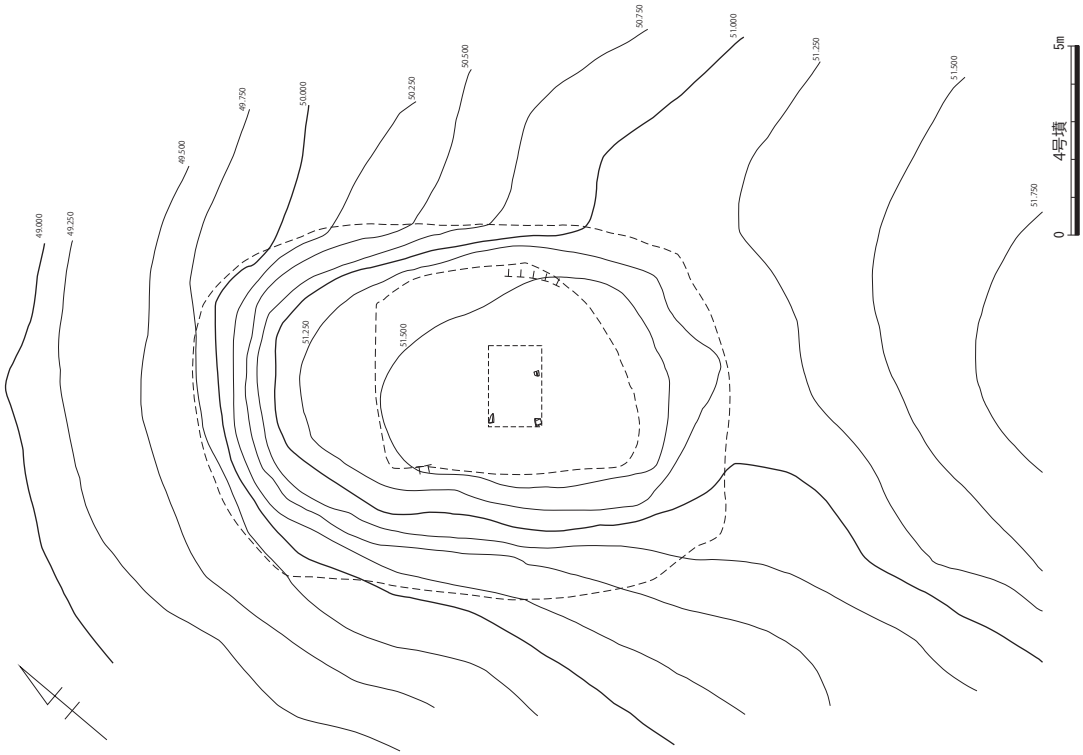

図５　４号墳平面（1/200）

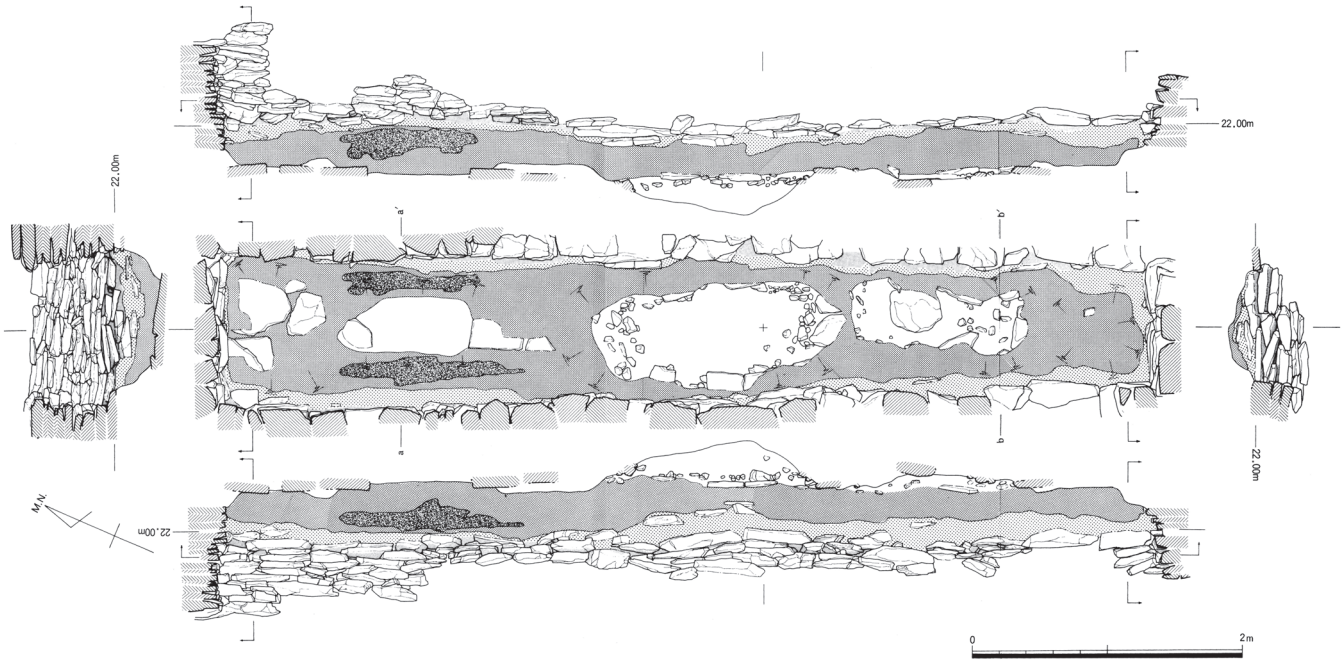

図６　浦間茶臼山古墳の石室（1/150）